

# 「やる気応援奨学金」レポート

## カナダに短期留学し語学研修 五輪とツーリズムの関係調査

法学部政治学科二年 石戸谷 舞 (私立中央大学附属横浜高校)



はじめに

私は法学部の「やる気応援奨学金」の中の海外語学研修部門英語分野の奨学金をいただき、二〇一五年二月八日から三月九日の一カ月間カナダのカルガリーに短期留学をしました。この「やる気応援奨学金」は、自分独自の研究テーマを決め、自分自身で研究していくものです。私は、その研究のために現地の方や組織とアポイントメントを取り、密に連絡を取り合いました。先方からの返信がとて遅かったり、ようやく決まったアポイントメントが突然キャンセルされるなど、数々のハプニングもありました。しかし、今となってはその苦労した過程もすべて自

分にとって良い経験だったと思います。

### 活動内容

今回の私の研究テーマは、語学力向上とオリンピックの観点からツーリズムについて調べることでした。私が留学先をカルガリーにした理由は二つあります。一つは日本人留学生が比較的少ない都市だったこと、そしてもう一つはカルガリーが一九八八年冬季オリンピック開催都市であったことです。平日の九時から一五時前まで語学学校に通い、放課後や週末には語学学校の友達やホストファミリーと一緒にショッピングや観光をして過ごしました。オリンピック関連のリサーチについては、オリン

ピック開催施設であるCalgary Olympic Parkに勤務されている方とアポイントメントを取りインタビューをさせていただきました。また、公立専門学校であるSatu (セイト)を訪問し、そこで開催されたTourism information session (入学者説明会)にも参加させてもらいました。

### 語学学校

私はSol International schoolという語学学校に通いました。入学当初、学生の六割が韓国人で一瞬韓国語の学校かと疑うほどでした。後々その韓国人の友達に聞いた話によると、韓国でその学校はワーキングホリデーで海外に滞在する学生に推奨されている語学学校の

一つだそうです。学校全体で日本人は私を含め四人のみで、一カ月間は英語のシャワーを浴びたいと思っていた私にとってとても良い環境でした。クラスはレベル別に七つのクラスに分けられ、テストの結果私はレベル六のクラスに入りました。しかし、レベル七の学生数の関係上、三週目からはレベル七と六が合併することになり、幸運にも実質一番上のクラスで授業を受けることが出来ました。このレベルまで来ると、ほとんどの学生が英語にとっても堪能で、私の英語能力がまだまだであることを再実感させられ、良い刺激になりました。通常授業は九時から三時までであり、文法・アクセント・ディスカッションなど幅広い内容でした。一三時から一四時半までは、オプションで付けられる授業で、IELTSの授業に参加しました。移民大国として知られるカナダでは、IELTSは移民の必要条件であるため日本よりも普及

率が高いということで、関心があったからです。また、この学校の規模は大きくないため、学校全体で学生同士仲が良かったです。そこで知り合った友達とは今でも連絡を取り合っていて、次の春休みには皆に会いに韓国に行く計画も立てています。

### 五輪パークでのインタビュー

二月五日、この日は事前にアポイントメントを取っていたDateさんにマンツーマンでインタビューをさせていただきました。Dateさんはカルガリーオリンピックを



語学学校の休憩時間にクラスメートと

開催したカルガリーオリンピックパークに勤務されている方です。インタビューのみの予定だったところを、敷地内をすべて案内してくださり、敷地内の少し離れた所に設置されているジャンプ台や実際にオリンピックで使用されたボブスレーのスタート地点など、普段入れないような場所にまで車で案内してくださいました。敷地内には、長い歴史を持つジャンプ台など維持に多額のコストを掛けながらもそのままの形を残している施設が多数ありました。Dateさんのお話によると、そのような維持

費を確保するために、敷地内の建物をほかの業者に提供し、結婚式場として大きな部屋を提供する、夏にはゴルフレッスンを行うなど、ウィンタースポーツ以外の分野でもさまざまな形で活用しているようでした。中でも印象深かったのは、オリンピック開催当時ミーティングなどで頻繁に使われなくなってしまった会議室です。多くの有名人の名前が壁一面にプリントされ

ており歴史を感じる会議室でしたが、雨天時には雨漏りが起きるとのことでした。改装修理をしたくても、ほぼ使われていない会議室に多額のコストを割くほど予算に余裕はない、とおっしゃっていました。このお話聞き、オリンピック開催後の維持費問題について考えさせられました。



カルガリーオリンピックパークのスタッフヘインタビュー

は二〇二〇年東京オリンピックは日本への観光業に大きく影響するだろうと断言されていました。またオリンピックを開催する上で重要なことは、「オリンピック閉幕後」を想定しながらプランを立てることだともおっしゃっていました。

### 専門学校セイト

セイトは、ビジネスやエンジニア関連の修了資格やディプロマプログラムを幅広く提供しているアルバータ州の公立専門学校です。

数あるプログラムの中にツーリズムがあり、今回はその教授であるAndyさんとアポイントメントを取り、インタビューさせていただく予定でした。しかし、日本出発直前にAndyさんから急遽ツーリズムの入学者説明会に参加してはどうかという提案を受け、それに参加することにしました。このセイトのツーリズムコース入学者希望者向け説明会の会場には三〇人以上の人が集まっていました。説明会を通して、ツーリズムを専門に学ぶ学生がどんな勉強をしているのか、この学校の学生の具体的な就職先など、細かな内容を聞くことが出来、とても良い機会でした。また、カナディアンロックキーなどのエコツーリズムの話が個人的にとっても興味深く、カルガリーでは日本よりもエコツーリズムが普及していると感じました。

### ホストファミリー

私はホストファミリーに本当に恵まれていました。若い夫婦二人が迎えてくれて、家はお城のように広く、部屋はもちろん、シャワーやトイレまで私一人が自由に使えることに驚きました。また、そ

の夫婦は以前日本に二年間滞在経験があるほどの親日夫婦で、日本のことに理解もあり興味を示してくれるような夫婦でした。三日に一回はこしひかりを食べていることに驚きを隠せませんでした。週末にはドライブやショッピング、そしてスノーボードをしにカナディアンロックキーまで連れていってくれたり、数えきれないほどの思い出があります。中でも、真夜中に起こされ、車で数分の穴場スポットでオーロラがかすかに見えて三人で大騒ぎした夜は一生忘れられません。

また、この夫婦はクリスマスチャンだったこともあり、食前にお祈りをしたり、週末の教会のイベントに参加するなどキリスト教に触れる機会がとて多く、宗教にあまりなじみのない私にとってはとても貴重な体験でした。神は衣食住と並ぶほどに重要だと思われており、神という存在を絶対視するカルガリーの人々の思想に深い感銘を受けました。

この短期留学の中で、私にとってこのホストファミリーの存在はとても大きく、今でも月に一度のペースでテレビ電話をしています。

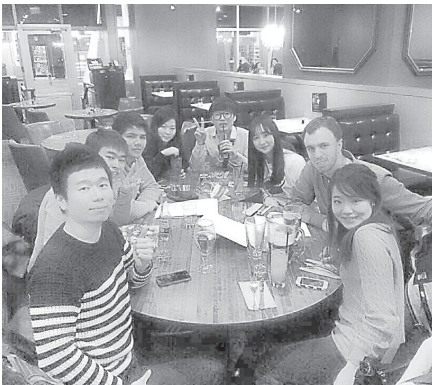
来年の春には東京に来てくれるので、再会が待ち遠しいです。  
おわりに

今回の活動の反省点として挙げられることは、自分の研究テーマがより具体的であるべきであったことです。「ツーリズム」という研究テーマの枠組みは広く、事前リサーチをする際にテーマをもう少し具体的にする必要があったと思います。確かにオリンピックとツーリズムとの間には深い結び付きがあります。しかし今回の活動は、結果的にオリンピック開催施設の現状、そして専門学校でツーリズムのカリキュラムの情報を得ることとは出来たものの、オリンピック

とツーリズムの具体的なつながりを知ることが出来ないまま終わる形となってしまいました。

しかし今回、この「やる気応援奨学金」の書類選考の過程から帰国後のレポート提出までの全体を通して得るものはとても多かったです。語学学校でレベルが高い学生と授業を受けられたこと、実際のオリンピック開催にかかわった方とのインタビューを通して二〇二〇年東京オリンピック開催により興味が深まったことなど、研究テーマに沿って活動出来たかと思えます。また、放課後に図書館や現地の大学で開催されていたイベントに積極的に参加したことで、ワーキングホリデー、移民問題など、ツーリズム以外にも研究テーマには含まれていなかった多くの有益なお話を聞くことが出来たことも、予想外の収穫でした。

今回の「やる気応援奨学金」をいただいて、たくさんの方の貴重な体験をさせていただきました。かわってくださった先生方、アドバイザーをくださった先輩方、そして見守ってくれた両親に感謝の気持ちでいっぱい입니다。この場をお借りして御礼申し上げます。



放課後、語学学校の友達とダウンタウンへ